

第4学年2組 算数科学習指導案

- 1 単元 1けたでわるわり算の筆算（本時7/10）
- 2 本時の目標
 - ・既習の筆算の仕方をもとに、 $(3\text{桁}) \div (1\text{桁})$ で商に空位がある場合の筆算の仕方考えることができる。 （思考・判断・表現）
 - ・ $(3\text{桁}) \div (1\text{桁})$ で商に空位がある場合の筆算をすることができる。 （知識・技能）
- 3 展開

段階	児童の活動	教師の活動
導入 (5)	1 どんな問題か確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・十の位の商の立て方が難しいです。 ・はじめの位に商がたちません。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・$642 \div 6$、$252 \div 6$ 児童の答えに対し、どのように考えたのかを問い返す。 ・本時の学習課題を板書する。
	2 本時の学習課題を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; text-align: center;"> たてる数に気を付けて、わり算のしかたを考えよう。 </div>	
課題 (1)	3 $642 \div 6$ 、 $252 \div 6$ の筆算の仕方考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・0を書いていいか分かりません。 ・最初の商に見当がつきません。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・商がどの位から立つかを考えて、筆算で計算するよう指示をする。 ・$(2\text{桁}) \div (1\text{桁})$ のときを想起させながら行わせる。 ・苦手としている児童のつまずきを把握し助言する。(T2)
	4 $642 \div 6$ 、 $252 \div 6$ の筆算の仕方をチームで話し合う。	
展開 (34)	5 チームで話したことを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 十の位に0を書かないと、商が17になってしまうので「見える0」にします。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「まぼろしの0」「見える0」をキーワードにして話し合わせる。 ・<u>友達の考えを見て、付け加えや変更があれば、自分のノートに書き込むよう伝える。</u> ・児童からでた言葉をまとめて $642 \div 6$、$252 \div 6$ の解き方を説明する。(T2)
	6 教科書の問題で $(3\text{桁}) \div (1\text{桁})$ で商に空位がある場合の筆算の仕方を確かめる。	
整理 (5)	7 算数日記を書き、本時の振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 友達の意見を聞いて、十の位に商がたたない理由が分かりました。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自らの変容や考えの深まりを実感させるために、本時の授業で分かったこと、友達の考えでいいと思ったこと、考えが変わったことをノートに書かせる。

- 4 評価
 - ・前時の学習をもとに、 $(3\text{桁}) \div (1\text{桁})$ で商に空位がある場合の筆算の仕方考えようとしている。 （活動3のノートの記述から）
 - ・友達のノートを見たり、説明を聞いたりして、 $(3\text{桁}) \div (1\text{桁})$ で商に空位がある場合の筆算の仕方を理解し、自分の考えを振り返ることができたか。 （活動6・7の様子から）